



氏名:村井清乃

年齢:17 (回想・外伝) ~22 歳 (5 章)

生年月日:1932 年 10 月 27 日

死没年月日:1955 年 7 月 15 日 (満 22 歳死去)

身長:156cm

血液型:A 型

所属 (軍関係): 明野飛行学校→飛行第 244 戦隊→陸軍憲兵学校→扶桑陸軍第二野戦ウィッチ憲兵隊→第 25 軍ウィッチ憲兵隊大西隊→第 25 軍ウィッチ憲兵隊特別警察隊→ボルネオウィッチ憲兵隊アピ分遣隊→昭南ウィッチ憲兵隊

階級:少尉

使い魔:ツキノワグマ

固有魔法:盗聴 (半径 5 キロ圏内の人が話していること、心に思っていることなどを誰が話しているか心で思い描いているか発言者まで特定して読み取ることができる)

使用機材:九四式拳銃、扶桑刀、九五式軽走行脚

本籍地:山梨県北巨摩郡穂坂村 2-3

現住所:本籍地と同じ

出身地:本籍地と同じ

育った場所:本籍地と同じ

星座:さそり座

髪色:黒

髪型:肩くらいまでの長さ

瞳の色:黒

視力:左右 1.0

利き手、利き足:右、右

その他身体的特徴:扶桑人女性の一般的な肌色、胸は大きめ、耳が良い、中肉中背

宗教：仏教曹洞宗、神道

前科、賞、学歴：明野陸軍飛行学校、陸軍憲兵学校

趣味：読書 理由：昔から父親から言われて義務的に行っていたが純粋に知識を手に入れることが楽しくなったから 料理 理由：遠い異国の地、厳しい軍隊で母の優しさを思い出すから

興味があるもの：現地の人たちの暮らし 理由：仕事でその地の人々のことを知る必要があり、現地の人々からの情報収集のために仲良くなりたいとも思っていることから興味を持っている

大切なもの：国、家族、誇り

言語：扶桑語標準

一人称：私

二人称：あなた、〇〇さん

声、話し方、口癖：堅苦しい公務員のような丁寧語「～です、～ます」

「第25軍ウィッチ憲兵隊特別警察隊の村井清乃少尉です。憲兵隊本部までご同行願います」
「痛いですか？苦しいですか？早く吐いてしまえばすぐに楽にしますよ。全てを吐いて楽になりましょう。ね？それが貴女のためでもあります。反扶桑の活動をしている者の名前を言いなさい」

「全ては上官からの命令だから実行しただけです。軍人が上官命令に従うことは当然のことでしょう？上官の命令は天皇陛下の命令なのですから」

「宮藤さん。ここは地獄ですよ。彼らは私たちを恨んでいます。人間の恨みとは恐ろしいものです。特に私は憲兵でしたからね。特に……宮藤さん。あなたはどのような事件でここに？」

「早く吐いた方が身のためですよ」

「嚴重処分です。住民を集めて用意して下さい」

「確定が来ました。お先に参ります。お世話になりました」

「なぜ、敵である私に優しくしてくれるのですか」

「国が違う、ただそれだけで引き裂かれるのは辛いです。敵同士でも私はあなたをお慕いしております」

「逃げてください……」

身だしなみ：きっちりしており、少しのしわも気になるほど。ボタンは夏でも第一ボタンまできっちり留めている

好きなもの（こと）：規律を守りきちんとしていること、扶桑料理全般、本、憲兵隊、扶桑、勉強

嫌いなもの（こと）：だらしないこと、ゴキブリ、蛇、敵国、規律を守らないこと

最も大きな欲望（行動指針）ベスト3・価値を置いているもの(◎がベスト1位)：◎憲兵ウィッチとして立派に勤め上げ最高職まで上り詰め、ウィッチになることを反対した父を見

返して認められたい、扶桑陸軍のウィッチとして立派に戦死を遂げて靖国神社へ祀られ祖国をいつまでも守る存在になりたい、扶桑の軍人として潔く絞首台に上り死を遂げたい
特徴的な動作や仕草、ルーティーン:腕組み、顎や口元に手を当てる、ペンを顎や口元に当てる、場を制するときパンパン手を叩く、毎日の鍛錬
渾名:鬼の村井(扶桑軍憲兵隊内)、シンガポールの悪魔(現地人)、最恐の魔女(他部隊)、きよちゃん(友達)、人間図書館(憲兵隊内)

性格

キーワード:愛国心が強い・勤勉・忠実・規律正しい・内向的・従順・責任感が強い・生真面目・几帳面・完璧主義・疑い深い・手厳しい・融通が利かない・思慮深い・冷静・誠実・性悪説・(仕事においては)冷酷・残忍

長所

厳しい家庭環境で育ったため生真面目な堅物で決まった時間に起き、決まった時間に食事し、決まった時間に寝るというサイクルは決して崩さないタイプ。

軍人であるため規律第一主義で何よりも規律が優先されると考えており、どんな状況においても規律を重んじる。

こうなりたいと明確な達成願望と強い目標や目的意識があるため、勤勉でいつも一所懸命に集中して仕事に励み仕事を着実にこなしていく

聡明なため大変に思慮深く、いつも本を手にしており、いかに早く容疑者の口を割らせるか、その土地の人々の特性など、常に研究に励んでいる。

とても知的で賢く、陸軍刑法、海軍刑法、各軍軍律をすべて完璧に暗記している

軍人であるので愛国心が人一倍強く国を守る軍隊にいること、皇軍の一員でその軍紀を守る立場にあることを誇りに思っている

軍人であるので従順かつ、忠実で、上官の命令はどんな命令でも必ず実行する

厳しい規則のある家で育ったため責任感が強く、誠実で、何事も真剣に対応し、一切手を抜くことはなく、自分のことよりも他を優先しがち

社会的責任に強い信念があるため正義感が強く、軍律や軍法に照らして間違っていることは上官であっても決して許さず、上官に対しても容赦なく逮捕状を請求するタイプ

短所

航空ウィッチ部隊にいたときに仲間からひどい裏切りにあい、それが要因で人間関係が崩れクビになったため疑い深く、少しでも矛盾があると友達や家族でさえ尋問のように質問攻めにする。

信賴していた航空隊の仲間から裏切られた経験から性悪説で、人間の本性は悪だと思っている

過去に航空隊をクビになったため失敗を極度に恐れ完璧主義で仕事は常に完璧でないと気が済まない。

かなり厳しい道德規範の中で育ったため自分にも厳しい分、他人にも同等に厳しく、少しでもできない点があると、厳しく叱責しがち

愛国心が強い分、アジア諸国も扶桑と同等のレベルの国力を求めるあまり、偏見的な発言をすることもある

真面目で仕事を優先しすぎ、様々なことを背負いすぎるあまり自分を大切にできない

笑いなどがない真面目な家に育ったため生真面目すぎ融通が利かずに自分のやり方を変えない

従順で忠実であろうとするあまり、自分の信念を曲げることや人道的、法的に許されないことでも実行してしまうことがある。

責任感が強いあまり、人を指導して介入し、ルールを敷こうとする傾向がある。

長所と短所の中間

内向的で普段は物静かであり、必要以上にはいろいろと話さないタイプ

几帳面で、自分の身の回りにあるものは一ミリでも傾いたりずれたりしていると気に入らない。

怒るときは怒鳴らずに静かに怒るタイプ 例:「なぜこんなことするんですか?」「何か楽しいですか?」

保守的で昔からのやり方にのっとって物事を進めていくタイプ

夢を見ず極めて現実的な考え方をしている現実主義者

仕事上での表面的に作っている本当の自分でない性格

仕事では冷酷な性格で自白させるためなら拷問もいとわず、結果としてたとえ死んでも大きな正義を得るためなら仕方がないことだと思っている

規律や法律を守らない人に対しては非常に無慈悲で厳罰、極刑もいとわない

残忍で市民への見せしめや命令ならば残虐な公開処刑、晒し首も全く躊躇せずに自分から進んで行う。

ギャップ

他のことはそつなく完璧にこなすのに料理だけはなぜか、とてつもなく苦手。しかも、質が悪いことに自分では全く気が付いておらず、むしろとても上手だと思っており、清乃の数少ない趣味になっている。

いつも休みのたびに部下たちに、一口でも食べれば失神を免れ得ないといわれる殺人的な手料理をふるまっては、失神またはその寸前の状態にさせ、部下たちを無自覚に命の危機に追い込んでいる。また、良かれと思ってこっそり隠し味を入れたところ、清乃以外の食べた

人全員が三日三晩、のたうち回るような腹痛により動けなかったという伝説を残している。ちなみに、清乃自身が言うにはおいしいらしく、平然として食べ、さらにはおかわりまでして全部残さず食べ切っている。また、そのすさまじく危険な清乃の手料理は、憲兵隊の中でこっそりと、口を割らない容疑者への拷問道具の一つとして使われている。

配属当初は寝間着に着替えていたが、シンガポールやボルネオなど南方地域は扶桑と違い、夜も蒸し暑く、熱帯夜で我慢ができないほど暑いと、寝るときは露営でない限りは全裸で眠っている。

酒に弱く、少しでも飲むとすぐに酔い、物静かな性格からとたんに饒舌となる。なおかつ酒癖が非常に悪く、まるで、壊れた機械のように絡み上戸と泣き上戸のスイッチが絶え間なく切り替わりそれを繰り返す。さらに酒が進むと野外でも平気で服を全部脱ぎ始めて、全裸になり、誰彼構わずキスしまくるキス魔になる。そして最終的には戦友たちの服も脱がせて、抱きしめて、体を触りまくり、セクハラ魔になる。第 25 軍ウィッチ憲兵隊本部でシンガポール占領のお祝いの折に上官命令によって飲まされたときに、前述のように大暴れして多くの戦友や上官が被害にあい、以降、清乃に酒を飲ませてはいけないことは隊内で暗黙のルールとなった。また、ボルネオウィッチ憲兵隊アピ分遣隊でも歓迎会の時に飲酒させられたが、その時にも大暴れしたのは言うまでもなく、戦後何十年経っても、語り継がれるほどである。ちなみに、清乃自身は全く記憶になく自覚もないので質が悪い。

トラウマ

・厳格な家で育った経験から期待に添わなくてはいつも自分を追い込み、失敗したときに人から失望されるのを恐れている

・人間関係と能力的な問題から一度、航空歩兵部隊を実質クビになった経験から、常にまたクビにならないか恐れている

・結果を出すことができずにクビになった経験から、求められる結果以上の成果を出さなくてはと常に焦っている。

・新人憲兵時代容疑者への拷問を拒否して土持美咲中尉に殴られ暴行された経験から常に殴られることを恐れて積極的に過酷な拷問を行っている

・憲兵として多くの人々を死に追い込んだ経験から戦争が終わったときに大変な問題になるのではないかと恐れている

育った場所の地理的な環境・地域の人々の生業

山梨県北西部、甲府盆地北西端の山間の村で育つ。多くの住民は農業を営む。食用作物だけでなく、養蚕も多くの農家が行っており、養蚕用の桑畑も広がる。舗装はされておらず砂利道である。山と山の間の平地に住居があり、猟師として山の中で暮らしている人もいる。

家庭環境

元軍医で開業医の比較的金銭的な余裕のある裕福な家庭で育った。しかし、父も母も、もともとは貧しい農家の出身で無駄なぜいたくをせずに質素儉約をよしとする家庭であったため、決して金にもものを言わせたぜいたくな暮らし向きではなく、一般的な家庭と同じ暮らしをしていた。

厳格な家庭で、父の言うことが絶対という、典型的な昭和の家庭環境。

一方で苦勞して勉學によって身を立てた父の方針で教育や知識は何よりも財産という考え方の家のため、子供への教育への投資は惜しまず、家庭教師を何人も付けた超英才教育を受けさせていた。また、父が大変な読書家のため、本が山のようにある家で、父が買い集めた数万冊を超える本を収める巨大な蔵がある。医学の本だけでなく、小説、文学、人文学、社会科学、自然科学などありとあらゆる本が収められており、地域の私設図書館のようになっている。また、父の書庫に収められた分厚い 400 ページくらいある本を毎週 10 冊以上読ませ、内容について自分はどうか考えたかなど報告させるというスパルタな教育が行われているなど教育熱心な家庭環境。

家族構成

父、辰五郎：元軍医で開業医。村井の本家の次男で親と同居する長男家とは少し離れたところに家を構えている。貧乏な小作農の家に生まれたため、自ら身を立てるしか道はなく大変苦勞して勉強し、医大へ行き、その後軍医として軍に入隊した。

清乃が生まれたころには除隊しており、穂坂村唯一の診療所の医者として地域医療を支え、いつも村の衛生環境について気を配り、感染症の予防活動に取り組んでいる。村の名士で優しい医者として有名。

本来は生真面目で非常に厳格な性格、一度決めたら、梃子でも動かないほどの頑固で、融通は一切きかない。いつも冷静に客観的に物事を見ることができる。勤勉で患者のためにはどうすればいいかといつも考えている。典型的な明治の男で昭和の父。初めての子である、清

乃に対しては、大切にすぎるあまり、支配的になってしまい、娘を常にコントロール下に置かないと気が済まなくなってしまう、娘の交友関係まで厳しく制限し、恋愛はもってのほか、村の子どもたちと友達になることまでも厳しく禁じた。（やりすぎたと思い、妹の美代子に対してはそのような介入はしていない）

厳しく叱責することはあっても暴力は決して振るわないことを信条にしている。これは軍隊時代に横暴な上官から殴られたことが影響している。

医者を生業にしているだけありとても博識で思慮深くいつも医学の進歩のために研究を欠かさない毎日を送っている

あまりウィッチを好ましく思っていない。しかし、これは差別的な感情故ではなく、幼い少女が危険な戦場へ赴かなくてはならず、自らも軍医として多くの精神が壊れたウィッチたちを見てきており、心を痛めているためである。

清乃が軍にスカウトされた際は猛烈に反対し、軍の強い要請でしぶしぶ認めたが本心では今でも認めていない

母、イト：極度の心配性でいつもおどおどしている。少々過保護な気がある。

厳格な父とは違って温和な性格。完璧主義で妻として母として何でも完璧にできなければならないと思っている。

軍人となった清乃の身を案じている。彼女もウィッチ適性があったため、ウィッチになりたいという夢があり、第一次ネウロイ大戦に従軍したかったが、辰五郎とは学校卒業後直ぐにお見合いで結婚し自らの夢をあきらめた過去があるので、心配しつつも自分の道を見つけた清乃を応援している。

妹、美代子：7歳年下の妹でいつか清乃のように自らもウィッチとして活躍することを夢見ているが、姉の仕事については詳しくはわかっていない。

心優しい性格で明るく温和な性格。清乃ほどストイックではないが、真面目で、学校では級長を務めている。正義感が強く不正は決して許せず、友達がいじめられていたら、体が大きな上級生の男の子にも立ち向かっていくほど勇敢で、たとえ大人でも間違ったことは許さず、厳しく注意する。

恋愛遍歴

父が厳格で、交流関係まで厳しく制限してきたことから子ども時代は一切出会いがなかったこと、軍に入隊後も戦争中であり、軍紀を粛正する憲兵という立場である自身が恋愛にうつつを抜かすことは不謹慎であるという立場をとったことから片思い両思い含めて21歳までなかったが、21歳で初恋の相手を見つける。

初恋の人

氏名：劉祥威

国籍：シンガポール

民族：華僑

年齢：22 歳

知り合ったきっかけ：劉は扶桑軍の偵察のため、扶桑人に接触するため、清乃が華僑ゲリラに対する私服での内偵でゲリラに接触するためとそれぞれの任務の時に接触し出会う。

恋のきっかけ：1953 年 4 月 12 日に清乃が内偵捜査中に華僑ゲリラによる銃撃事件に巻き込まれたときに、清乃は敵である扶桑人であるにも関わらず、華僑である劉は身を挺して清乃を守ってくれたことから、今まで戦争で忘れていた、人としての優しさをくれたことをきっかけに関係が始まる。

自身が扶桑人であり、さらに憲兵隊所属であることを明かしても、劉は気にすることはなく、清乃を一人の女性として愛し続け逢瀬を重ねた。

失恋のきっかけ：敗戦のわずか 1 か月前 1953 年 7 月 13 日に、扶桑軍に逮捕、嚴重処分で翌 14 日に処刑され、関係は終わった。劉は最期まで清乃と恋人関係であったことは誰にも明かさなかった。

過去に影響を受けた人

父（父の項及びトラウマの項を見よ）、土持美咲：第二野戦憲兵隊中尉：18 歳（1949 年）
（詳しくはトラウマの項を見よ）、航空隊時代の隊長

なんでも打ち明けられる友人

生い立ち上、職務上の関係からそこまで深い関係になることがなかったためいない

心のよりどころ

憲兵隊、母

魔力の減衰について:20 歳を超えてからシールドは薄くなりつつある

経歴

年月日	年齢	村井清乃の主な経歴及び清乃にかかわる事件、出来事等
1932 年 10 月 27 日	0	山梨県北巨摩郡穂坂村で父辰五郎、母イトの長

		女として誕生
1939 年 4 月 1 日	6	穂坂尋常小学校入学
1939 年 5 月 4 日	6	魔法力発現
1939 年 6 月 8 日	6	妹の美代子誕生
1941 年 9 月 10 日	8	陸軍からスカウトされ、明野陸軍飛行学校入学 を打診され、承諾し志願。
1941 年 10 月 20 日	8	明野陸軍飛行学校受験
1942 年 4 月 1 月	9	明野陸軍飛行学校に転校し入学
1945 年 3 月 31 日	11	明野陸軍飛行学校をぎりぎり卒業 航空歩兵ウィッチ特例として軍曹待遇で任官 飛行第 244 戦隊へ編入、錬成訓練に励む
1947 年 4 月 1 日	14	曹長任官
1947 年 10 月 17 日	14	飛行技術が卒業時から向上せず 244 戦隊上層部 より今後向上する見込みなく、「実戦に必要な適 性が欠如せるもの」と判断されたこと、生真面 目で融通が利かない性格が災いして人間関係が 悪化したことから隊長より転科を勧告される
1947 年 10 月 27 日	15	陸戦歩兵ウィッチへの転科を志願
1947 年 12 月 15 日	15	固有魔法から憲兵の素質を見出され憲兵への転 科を命じられる
1948 年 4 月 1 日	15	陸軍憲兵学校に少尉候補者(准尉)として入学
1949 年 3 月 31 日	16	同日付で陸軍憲兵学校卒業 少尉候補者(准尉)として士官勤務を習得(～5 月

		31 日)
1949 年 4 月 1 日	16	同日付で第二野戦ウィッチ憲兵隊（隊長：大石正代中佐）編入、ハルピンに派遣。錬成訓練開始
1949 年 6 月 1 日	16	少尉任官
1949 年 12 月 8 日	16	太平洋戦争開戦
1949 年 12 月 9 日	17	太平洋戦争開戦を受け、第二野戦ウィッチ憲兵隊、第二十五軍の戦闘序列に加わる。
1949 年 12 月 14 日	17	長春出発
1949 年 12 月 15 日	17	大連到着
1949 年 12 月 17 日	17	大連港出港
1949 年 12 月 23 日	17	澎湖島馬公到着
1949 年 12 月 31 日	17	馬公出港
1950 年 1 月 8 日	17	シャムロ領シンゴラ沖に到着、14 日まで碇泊
1950 年 1 月 14 日	17	南シャムロ・シンゴラに上陸、同夜市街地南方地区にて露営を行う
1950 年 1 月 15 日	17	軍用トラックでハジャイに前進し、民家に宿泊
1950 年 1 月 16 日	17	第二野戦ウィッチ憲兵隊は隊長の大石中佐の命により 6 個分隊に分けられる。清乃は大西隊（隊長：大西聡乃中尉）に編入する。大西隊は近衛師団に従軍するよう命じられる。鉄道で移動し夕刻、スンゲイパタニー到着し露営
1950 年 1 月 17 日	17	大西隊所属の清乃は近衛野砲兵連隊の車両に分

		乗し同夜、クアラルンプール到着 同日夜クアラルンプールで敵航空歩兵ウィッチ来襲する。照明弾を投下し的確な爆撃であったことから軍司令部より「華僑が火光信号をして敵魔女を誘導している疑いがあるから捜査すべし」という命令があり、捜査に参加も犯人は検挙できなかった
1950 年 1 月 18 日	17	占領後間もないムアルに入り、現地で地図や、ブリタニア軍が残っていたガソリン・兵器・弾薬・車両・軍糧を搜索、インド人投降陸戦ウィッチを藤原機関に引き渡す
1950 年 1 月 24 日	17	センガラ付近で糧秣監視にあたっていた陸戦ウィッチ 3 名が同性でありながら現地住民の女性を強姦した事件の捜査に参加
1950 年 1 月 25 日—2 月 10 日	17	糧秣創作、燃料確保、投降兵の整理などを各占領地域においておこなう
1950 年 2 月 10 日	17	シンガポール島に入った第 25 軍司令部は、第二野戦ウィッチ憲兵隊に対し分隊の各師団配属を解き集結させるように命令があり集結。
1950 年 2 月 13 日	17	第 25 軍司令部からの命令を受け、大石隊長、同日分隊を再編成、清乃所属の大西隊は左翼隊（横田隊、隊長：横田昌美中佐）の傘下に入る。
1950 年 2 月 15 日	17	左翼隊、ブキテマ三叉路付近進出も、ブリタニア軍の砲撃を受け、退避、参謀部の指示によりマンダイ山付近で敗残兵及び、敵性分子等の検索を行う。
1950 年 2 月 15 日	17	ブリタニア軍降伏、シンガポール市内の警備地区割り当て、市内占領、ブリタニア軍陸戦歩兵ウィッチの武装解除、治安維持などの命令が下

		達。大西隊はシンガポール川以東を担当、治安維持、非行防止などの任務にあたる。
1950 年 2 月 18 日	17	第 25 軍司令部、マレー半島およびシンガポール島内、反扶華僑肅清命令発令、同日夕刻、フォートカニングの憲兵隊本部で大石隊長から肅清に関する命令が下達。
1950 年 2 月 19 日—20 日	17	華僑住民を検索し適当な広場へ集合の命令が出される
1950 年 2 月 21 日—23 日	17	集合させた華僑住民への検問を実施、清乃も検問に参加し約 100 人を厳重処分とする
1950 年 2 月 23 日	17	軍司令部からの「厳重処分」命令を受け、補助憲兵ウィッチが被選別者を殺害する華僑肅清事件発生
1950 年 2 月 25 日	17	第 25 軍ウィッチ憲兵隊が編成。同時に防諜、共産党ゲリラウィッチ対策に専念する部隊として第 25 軍ウィッチ憲兵隊特別警察隊も編成、清乃も配属される。 同夜、シンガポール占領のお祝いに上官命令で酒を飲まされ、酔って大暴れする。
1950 年 3 月 13 日	17	特別警察隊本部、オクスレーライズに移動
1950 年 4 月 14 日—4 月 30 日	17	清乃、マレー共産党幹部を逮捕、4 月末までに家宅搜索、検問、検索において 13 名の幹部の逮捕に貢献する
1950 年 4 月 30 日— 5 月 24 日	17	マレー共産党、スパイなどの検索を行いマレー共産党員 35 名逮捕。
1950 年 5 月 25 日— 5 月 26 日深夜	17	唐土民国重慶に全方位広域探査で扶桑軍情報を送信していたウィッチを現行犯で一斉検挙、壊

		滅に貢献
1950 年 6 月 9 日	17	清乃、シンガポール市内において固有魔法を使い検索中、マレー人抗扶ゲリラウィッチのテロ計画を傍受、二人を逮捕、尋問を開始する。拷問も行った。
1950 年 6 月 10 日	17	清乃、マレー人抗扶ゲリラウィッチへ 2 回目の尋問、拷問を行う。
1950 年 6 月 11 日	17	清乃、3 回目の尋問を行う。2 名のマレー人抗扶ゲリラウィッチを嚴重処分が妥当と大西に報告する。同日嚴重処分の認可が大西より下り、市街地広場において公開で自らの手による処刑を志願し扶桑刀により斬首し処刑。その後ゲリラの首は梟首される。
1950 年 6 月 12 日ー 7 月 12 日	17	清乃、抗扶ゲリラの検索を行い、扶桑軍及び在シンガポール扶桑皇国要人の襲撃計画を傍受し 1 か月間で 156 名の華僑ウィッチ、54 名のマレー人ウィッチ、華僑系一般住民 32 名を逮捕し尋問、拷問を行い、236 名を嚴重処分妥当と判断、大西隊長の認可が下り、機銃掃射での処刑を指示。残り 6 人は軍律会議に送致。
1950 年 8 月 12 日	17	ブリタニア軍の現地人スパイが扶桑軍の情報をシンガポール及びマレー半島の山間部で諜報活動を行うブリタニア軍部隊に流しているとの情報があり清乃が固有魔法で捜査を開始
1950 年 8 月 16 日	17	清乃、スパイ容疑でマレー人ウィッチ 2 名を逮捕し、尋問及び拷問を行う。
1950 年 8 月 17 日	17	マレー人ウィッチの 2 回目の尋問と拷問を行い、容疑が固まったとして嚴重処分妥当と報告、大西隊長より許可が下り、市街地広場において

1950 年 8 月 27 日	17	公開で自らの手による処刑を志願し扶桑刀により斬首し処刑。その後スパイ 2 名の首は梟首される。
1950 年 8 月 29 日—8 月 31 日	17	マレー共産党シンガポール市委員会の捜査に参加。市委員会でクアラルンプールにおいて開催予定の共産党中央大会に派遣する代表選出と資料検討のための代表大会開催中に突入し幹部の多数の逮捕に貢献し、尋問及び拷問を行う。
1950 年 9 月 1 日	17	クアラルンプールにおいて商社の社員を装い、共産党大会会場の偵察に参加。
1950 年 9 月 3 日—10 月 5 日	17	清乃、共産党討伐部隊に加わり、クアラルンプールにおいて大会会場を急襲し、共産党幹部 15 名を逮捕、29 名を射殺し、武器弾薬、共産党関係文書等を押収とマレー共産党の一時的な壊滅に貢献。
1950 年 10 月 15 日—12 月 4 日	17~18	清乃、シンガポール市内の固有魔法捜査を開始。1 か月間で華僑 10 名、マレー人 6 名、インド人 8 名、ユーラシア系 9 名のスパイを逮捕しインド人 8 名とユーラシア系 9 名、マレー人 4 名、華僑 2 名が扶桑軍に忠誠を誓ったため、逆用する。その他、華僑 8 名は嚴重処分妥当と判断し、扶桑刀により自らの手で公開処刑。その他マレー人 4 名は軍律会議へ送致。
1950 年 12 月 29 日	18	清乃、マレー半島ペラ州の山間部で華僑がスパイ行為を行い、ブリタニア軍に扶桑軍の作戦行動を流しているとの情報があり、固有魔法捜査を行い、2 か月間で 30 名をスパイ容疑で逮捕。そのうち逆用が 8 名、残り 22 名は嚴重処分妥当と判断し機銃での処刑を指示。
		シンガポール市内において共産党幹部 14 名の

		逮捕に貢献
1951 年 1 月 9 日	18	清乃、違法に共産党の機関紙を印刷したとして印刷所関係者 7 名を逮捕し、印刷機を押収
1951 年 1 月 19 日	18	清乃、印刷所の所長以下の幹部 5 名を逮捕
1951 年 3 月 20 日	18	清乃、ボルネオ憲兵隊アピ分遣隊への転属命令が大西より下達される
1951 年 4 月 1 日	18	清乃、ボルネオウィッチ憲兵隊アピ分遣隊（隊長：前野清華大尉）に転属、同日午後、ボルネオウィッチ憲兵隊アピ分遣隊本部到着しその夜開かれた歓迎会で酒を飲まされ、外地で 2 回目の大暴れをする。
1951 年 5 月 8 日	18	清乃、インド人を中心とした、反乱地下組織を摘発し、13 名を一斉検挙、逮捕に貢献する。同日うち、インド人 3 名の尋問を担当する。
1951 年 5 月 9 日	18	インド人 3 名への 2 度目の尋問、うち、1 名を嚴重処分が妥当と判断し、扶桑刀で公開処刑、2 名は軍律会議に送致する。
1951 年 5 月 10 日—6 月 13 日	18	清乃、固有魔法で一斉捜査し反乱地下組織構成員を 1 か月間で 33 名一斉検挙し壊滅に貢献し、23 名を嚴重処分に、10 名を軍律会議に送致。
1951 年 5 月 31 日	18	華僑系ゲリラがアピ付近で武装蜂起し、扶桑人及び対扶協力台湾人 23 名を殺害したとして、清乃、ゲリラ 22 名、村民 10 名を大量検挙。
1951 年 6 月 2 日	18	検挙した村民 2 名の尋問を行う
1951 年 6 月 3 日	18	2 回目の尋問を行う。

1951 年 6 月 4 日	18	3 回目の尋問を行う。2 名を嚴重処分妥当と判断。他、嚴重処分対象者とともに機銃掃射で処刑を指示。
1951 年 7 月 9 日—8 月 20 日	18	清乃、アピを中心にブリタニア軍現地人スパイ 13 名を固有魔法で一斉検挙。全員から扶桑軍に忠誠を誓わせ、逆用する
1951 年 10 月 10 日	18	華僑系ゲリラ 100 名により軍・警察官舎、日本商社の出先機関・出張所、兵営旅館などを襲撃、破壊、殺人を犯したアピ事件発生、アピ憲兵分遣隊も襲撃され、使用人 1 人と衣服が宿舎から掠奪され、清乃も応戦に参加する
1951 年 10 月 11 日—1952 年 1 月 19 日	18—19	内偵任務に就き、420 名の逮捕に貢献。120 名の尋問を担当し、全員を軍律会議に送致。
1952 年 1 月 21 日	19	清乃、アピ近郊プタガスで主犯格数名は斬首、その他 170 名は機銃による処刑に参加
1952 年 1 月 31 日—9 月 29 日	19	ゲリラ壊滅に向けて、内偵調査を実施し、8 月までに 268 名を逮捕し 9 月の終わりまでに 142 名の尋問を担当、全員を軍律会議に送致。
1953 年 1 月 29 日	20	1 月 24 日に設置された昭南憲兵隊へ 2 月 1 日付で転属が命令される
1953 年 2 月 1 日	20	昭南ウィッチ憲兵隊に転属
1953 年 2 月 21 日	20	清乃、リベリオン軍の B29 が昭南市内の無差別爆撃を行い、撃墜された搭乗員 11 名を逮捕する
1953 年 2 月 22 日	20	B29 搭乗員 3 名を 1 回目の尋問
1953 年 2 月 24 日	20	2 回目の尋問

1953 年 2 月 25 日	20	3 回目の尋問。軍律会議へ送致。
1953 年 4 月 12 日	20	ゲリラに対する捜査の過程で銃撃戦に巻き込まれ、劉祥威に出会う。
1953 年 5 月 2 日	20	密会を重ねて劉祥威と恋仲になる
1953 年 7 月 13 日	20	劉祥威が扶桑軍によって逮捕
1953 年 7 月 14 日	20	劉祥威が嚴重処分により処刑
1953 年 8 月 15 日	20	扶桑、ポツダム宣言を受諾し降伏、敗戦
1953 年 8 月 16 日—9 月 10 日	20	清乃ら憲兵隊は市内の治安維持任務にあたる
1953 年 9 月 12 日	20	昭南の扶桑軍が降伏文書に調印 同日、扶桑軍ウィッチ俘虜のキャンプへ移動
1953 年 10 月 23 日	20	市民を殺害した戦犯容疑でブリタニア軍に逮捕されチャンギー刑務所に収監される
1953 年 11 月 28 日—1954 年 4 月 28 日	21	清乃が関係した多数の事件に関する尋問を 60 回ほど受ける
1954 年 5 月 2 日	21	1 回目の裁判予備訊問（1950 年 6 月 11 日マレー人・華僑ウィッチ及び住民処刑事件）
1954 年 5 月 10 日	21	2 回目の裁判予備訊問（1950 年 6 月 11 日マレー人・華僑ウィッチ及び住民処刑事件）
1954 年 5 月 17 日	21	3 回目の裁判予備訊問（アピ事件関係）
1954 年 5 月 24 日	21	4 回目の裁判予備訊問（アピ事件関係）
1954 年 6 月 4 日	21	ハーグ陸戦法規違反で起訴

1954 年 6 月 11 日	21	金井由美弁護士と面会
1954 年 6 月 23 日	21	金井弁護士と 2 回目の面会
1954 年 6 月 28 日	21	ブリタニア軽戦争犯罪裁判シンガポール法廷審理開始(裁判長 スミス:マレー人・華僑ウィッチ及び住民処刑事件)
1954 年 6 月 29 日	21	2 日目の審理
1954 年 6 月 30 日	21	絞首刑判決 同日チャンギ刑務所 P ブロック(死刑囚監房)へ移動 即日、確認官に嘆願書の意味申し出 アン・ピアポイントと出会う
1954 年 7 月 1 日	21	嘆願書提出
1954 年 7 月 14 日	21	ディビス准将のもとに裁判資料等送達される 村井裁判の量刑に対する適切性の審理開始 (～3 月ごろ) 適宜戦犯裁判の証人として出廷
1954 年 7 月 28 日	21	前島弘美と出会う
1954 年 8 月 5 日	21	ブリタニア軽戦争犯罪裁判シンガポール法廷審理開始(裁判長 アダムソン アピ事件)
1954 年 8 月 6 日	21	絞首刑判決
1954 年 8 月 7 日	21	嘆願書提出
1954 年 8 月 12 日	21	ディビス准将のもとに裁判資料等送達される 村井裁判の量刑に対する適切性の審理開始

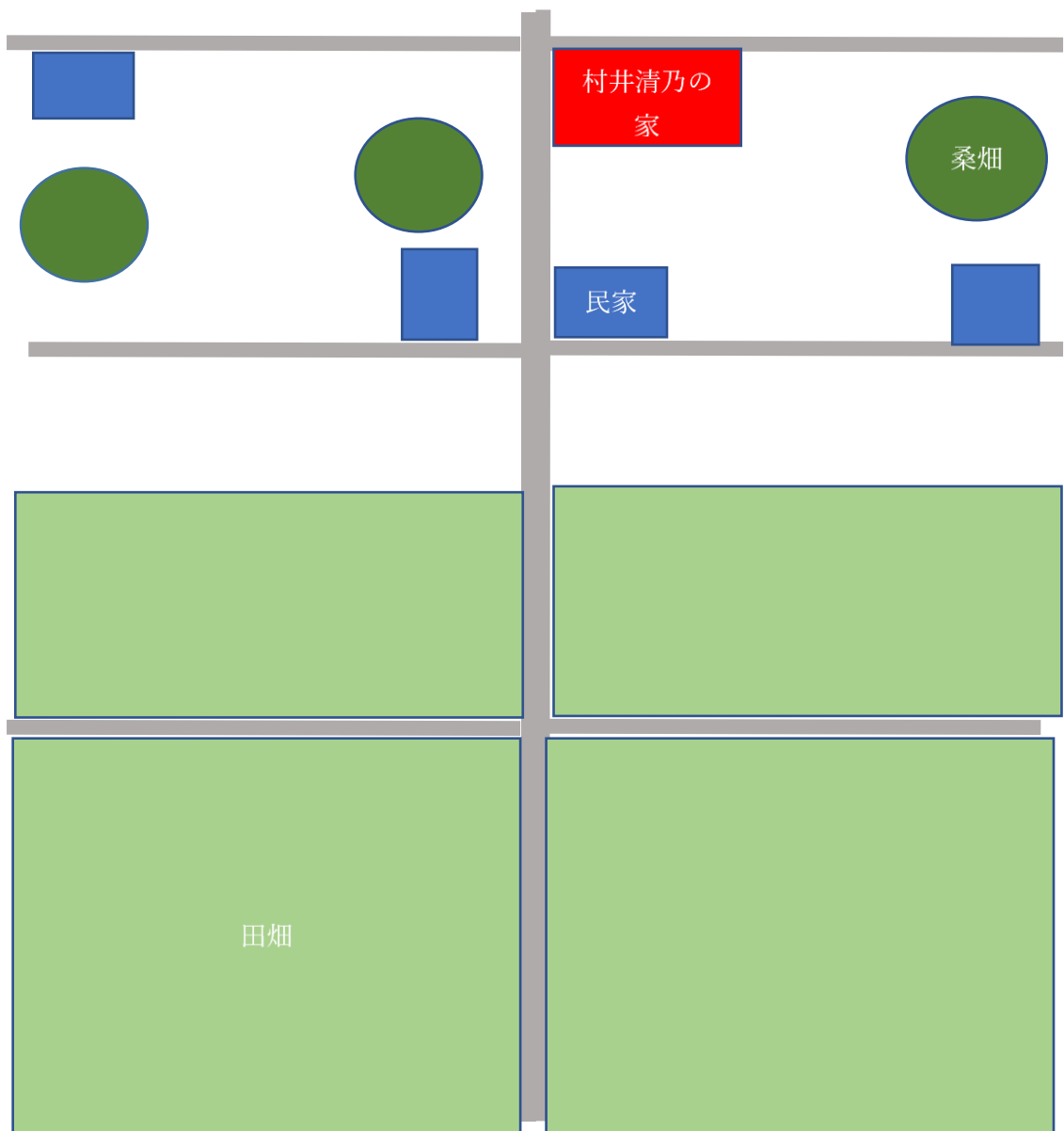
1955 年 1 月 21 日	22	弘川多栄と出会う
1955 年 1 月 28 日	22	宮藤芳佳と出会う
1955 年 7 月 12 日	22	ディビス准将より、絞首刑判決を確認するよう 助言を受け、同日確認官が絞首刑判決を確認し 村井清乃の絞首刑判決確定
1955 年 7 月 15 日午前 9 時 前後	22	シンガポールチャンギー刑務所で絞首に於いて 刑死 満 22 歳

辞世の句

還らざる 祖国夢見て 監獄の 壁に描くは 郷里（くに）の父母かな

おそれなく かなしみもなく 絞首台 風ぎし心で 笑いてぞ逝く

清乃の家の周囲の模式地図



キャラクターギャラリー





